

社会貢献活動の基本的な考え方

当社およびグループ各社は、金融グループとしての高い公共性を認識し、本業での活動を通じて社会の発展へ貢献することが重要と考えます。一方で、日常業務を通じた社会への貢献に加え、豊かな社会を実現するための『良き企業市民』としての活動も欠かせません。当社およびグループ各社は、『良き企業市民』としての社会的責任を果たすべくさまざまな社会貢献活動も行います。

社会貢献活動方針

当社およびグループ各社は、『良き企業市民』としての役割を認識し、豊かで持続可能な社会の実現を目指し社会貢献活動を行います。この社会貢献活動を積極的に行うため、企業で活動を企画・実施するとともに、社員のボランティア活動を支援します。

社会貢献活動の柱

当社およびグループ各社は、以下の4つの分野を社会貢献活動の柱としています。

福祉活動、地域・国際社会、環境活動、文化・芸術・教育

福祉活動

豊かな社会の実現に貢献するための福祉活動を行っています。

書き損じはがき、テレホンカード、切手等の募集・寄贈

当社では、グループ会社の社員から「書き損じはがき」を募集し、通信費としてボランティア団体に寄贈しています。また、三井住友銀行では「未使用テレホンカード」、三井住友カードでは「使用済み切手」「使用済みプリペイドカード」、SMBCフレンド証券では「使用済み切手」を社内でも募集し、ボランティア団体に寄贈しています。

手話講習会の開催

三井住友銀行では、耳の不自由な方への理解を深めることや店頭でのお客さまサービスの向上を目的とし、平成9年度より毎年、手話講習会を開催しています。平成19年度は約80名の有志社員が10回の講座を受講しました。また、平成17年より、毎年耳の不自由な講師による日常生活での感じ方等に関する講演会を、手話通訳士による通訳のもとで開催しており、平成20年4月には約1,200名の社員が参加しました。



ボランティア体験講座の開催

三井住友銀行では、社員や家族が気軽にボランティアを体験できるイベントを開催しています。平成19年度は、「盲導犬・介助犬・聴導犬のデモンストレーションを通して障害のある方のサポートの方法を学ぶ講座」「開発途上国の子どもたちの現状について学ぶとともに、当行店頭等で受け付けている外国コイン募金の通貨別仕分け作業を行う国際協力セミナー」「災害時等の負傷者や急病の際に、三角巾やAEDを使って応急手当する方法を学ぶ講座」などを開催しました。このほか、ボランティアに関する各種情報を社員に案内し、積極的な参加を呼びかけています。



高齢者支援団体への寄付

SMBCフレンド証券は、平成20年3月、高齢化社会に対応する企業に投資を行うテーマ型投資信託の販売で得た収益の一部を、高齢者の生きがいと健康づくりを推進する団体に寄付しました。

地域・国際社会

地域・国際社会の発展に貢献する活動を行っています。

三井住友銀行ボランティア基金

三井住友銀行では、有志社員約1万人（平成20年6月現在）の給与から毎月一律100円を天引きした募金をボランティア団体等に寄付しています。平成19年度に行った寄付事業は、以下のとおりです。



- *カンボジアの貧困地区における旧校舎の改築・増設工事、女子児童向け職業訓練
- *カンボジアでの絵本出版と先生への読み聞かせ研修会
- *ラオスでの学校図書室開設と子どもの情操教育を行う文化センターの運営

- *ラオスの小学生と少数民族出身者の教師養成学校への奨学金および保健衛生事業
- *中国農村部の女子児童への奨学金
- *アフガニスタンで紛争や地雷により被害を受け障害を負った人たちへの理学療法事業
- *ネパールでの栄養改善教育事業として保健施設や学校施設等への教材配布、技術指導等
- *ミャンマーでの保健・衛生・識字教育、裁縫技術訓練などを通じた女性の生活環境改善事業
- *バングラデシュにおける最貧困層等の女性を対象とした収入向上支援事業
- *アフリカ・スーダンの小学校における水の衛生改善事業
- *アフリカ・ブルキナファソの小学校での学校給食事業
- *インドネシアにおける手術費用や小中高生への奨学金、乳幼児を対象とした保健事業
- *ターミナルステージにある小児難病児とご家族の思い出づくりの旅行等
- *12～13歳児を対象とする国際交流プログラム
- *ろう者と聴者が協同で創る人形劇団による小学校でのワークショップ等
- *日本手話で授業を行う日本初の学校設立費用の一部

このほか、緊急災害支援として以下の寄付を行いました。

- ・平成19年度は、能登半島地震、ソロモン諸島地震津波、新潟中越沖地震、熊本県大雨災害、ペルー大地震、米国カリフォルニア州南部での山火事、バングラデシュ・サイクロン被害
- ・平成20年5月に、ミャンマー・サイクロン被害、中国・四川省大地震、同年6月には岩手・宮城内陸地震

災害義援金の受付口座の開設

三井住友銀行では、国内外での大規模災害発生時に、振込手数料無料の義援金口座を開設し、お客さまからの募金受け付けを行っています。また行内、日本総合研究所でも役員に対し募金の呼びかけを行っています。平成19年度は、能登半島地震、ソロモン諸島地震津波、新潟中越沖地震、熊本県大雨災害、ペルー大地震、バングラデシュ・サイクロン被害、平成20年5月にはミャンマー・サイクロン被害、中国・四川省大地震、同年6月には岩手・宮城内陸地震について義援金口座を開設しました。

ボランティアスタッフYUI（ゆい）の活動

三井住友銀行では、社員自らが企画立案を行う社内ボランティア組織「YUI」の支援を行っています。ろう学校での交流会、社員から集めた日用品のチャリティー販売、高齢者の方に歌を披露していただく晴れの舞台を演出するイベントなどを継続的に開催しているほか、平成19年度は、社員から集めた絵本に翻訳シールを貼り付けラオスの子どもたちに送る活動や、手づくり手芸品のチャリティー販売などを行いました。



SMBC 地域貢献プログラム



三井住友銀行では、全国の営業拠点が自ら企画し地域社会に貢献する活動を平成19年度より推進しています。これまでに、支店周辺や野外での清掃活動、支店周辺の花や樹木の植樹、手話講習会、世界の子どもの絵画ロビー展などを行いました。

ユニセフ（国際連合児童基金）等への支援

*三井住友銀行は、ユニセフ外国コイン募金実行委員会のメンバー企業として、同募金活動の運営に協力しています。当行の国内本支店・出張所の店頭「外国コイン募金箱」を設置して協力を呼びかけ、集まった募金をグループ会社「SMBCグリーンサービス」の協力を得て各国通貨別に仕分けし、日本ユニセフ協会に送っています。平成19年度は、当行店頭のほか空港等で受け付けた外国コイン約51万枚（約2.3トン）外国紙幣約4万枚を通貨別に仕分けした上、外貨に混入されていた円貨約600万円分とあわせて、日本ユニセフ協会に送りました。なお、実行委員会全体では、活動を開始した平成4年からの募金総額は7億8千万円にものぼっています。

また、普通預金の税引後利息を日本ユニセフ協会に寄付していただく「ユニセフ愛の口座」を取り扱い、三井住友銀行でもお客さまと同額の寄付をしています。



店頭で外貨募金を受け付けます。



各国通貨別に仕分けして、ユニセフに送ります。

*三井住友カードをはじめとするVJAグループ各社の会員向けポイントサービス「ワールドプレゼント」を通じて、カード会員の方からの寄付金を毎年日本ユニセフ協会へ寄付しており、同制度を開始した平成4年からの募金総額は2億円を突破しています。平成19年4月からは、日本ユネスコ協会連盟、WWFジャパン（世界自然保護基金）への寄付も行っています。また、「ユニセフVISAカード」や「赤い羽根VISAカード」など社会貢献型カードを発行し、各団体の活動資金として、カード利用額の一部を寄付・還元することで、よりよい社会づくりに貢献しています。

中国の大学における奨学金制度・寄付講座開設

三井住友銀行は、中国において、蘇州大学や上海外国語大学等複数大学への奨学金制度、ならびに大学での寄付講座開設を平成20年度より行っています。

SMBC GLOBAL FOUNDATION

アジア各国の大学生への奨学金支給を主な活動の一つとしている同財団は、平成6年以来、5カ国のべ5,000名以上の学生を支援し、平成18年は更にマレーシアとベトナムにもその活動を広げました。また米国やカナダにおいても教育・文化といった分野を中心とした地域貢献活動を盛んに行い、三井住友銀行の国際社会への社会貢献活動の一翼を担っています。

三井住友銀行国際協力財団

開発途上地域の経済発展に資する人材の育成および国際交流を目的とし、平成2年の設立当初から平成19年度までに、のべ44名のアジアからの留学生に奨学金を支給しています。また、発展途上国に関する研究機関・研究者への助成を行っています。

環境活動

地球環境の保全に貢献する活動を行っています。

SMBC 環境プログラム C・C・C 富良野自然塾

三井住友銀行は、脚本家の倉本聰さんが北海道の富良野で実施する環境事業を支援しています。この事業では、ボランティアの協力により、閉鎖されたゴルフ場の跡地に苗を育て元の森に回復させる活動と、五感で自然を体感する環境教育を行っています。当行では、あわせて有志社員と家族が参加する現地体験ツアーも行っています。



地域のクリーンアップ活動



*当社では、年に1日「SMFG クリーンアップデー」を定め、鵜沼海岸・須磨海岸

でのクリーンアップイベントに参加しています。平成19年度は各グループ会社より有志社員117名が参加しました。

*三井住友銀行では、平成16年度より毎年4月に有志社員が河川の清掃活動を実施しており、平成20年4月には約260名が兵庫県甲子園浜で活動しました。

*三井住友ファイナンス&リースでは、大阪本社の社員が自主的かつ継続的に御堂筋の早朝清掃を続けるなど、地域の美化に貢献しています。

*日本総合研究所および日本総研ソリューションズは、東京・大阪の本社ビルを中心に各自治体の呼びかけに応え、事業所周辺の清掃活動を行っています。

エコファンドの調査受託を通じた 民間自然保護団体への寄付

日本総合研究所は、環境保全に積極的な企業を選定して投資する株式投資信託・エコファンドの企業選定に関わる環境活動調査を受託しており、この調査委託に関して受領した収益の一部を民間自然保護団体に寄付しています。

文化・芸術・教育

文化・芸術・教育の発展に貢献する活動を行っています。

チャリティーコンサート「名曲のおもちゃ箱」の開催

三井住友銀行では、平成18年度より戦争や災害などで傷ついた世界の子どもたちを支援するためのチャリティーコンサートを開催しています。行内の音楽クラブで、子どもから大人までが楽しめる多彩な音楽を演奏し、会場では募金受付や世界の子どもたちから寄せられた絵画の展示、社員の手づくり品のチャリティー販売などを行っています。平成20年4月には、昨年が続いて東京都千代田区



日本大学カザルスホールにて第3回を開催し、多くのお客さまにご来場いただきました。

子どもイラストコンクール



三井住友銀行では、平成19年度より、小学生を対象に「なりたい職業」をテーマとしたイラストコンクールを行っています。第1回開催にあたっては約3,000作品が寄せられ、入賞者に絵画入りのオリジナル通帳を作成したほか、入選作品集を当行の全支店に配布しお客さまに閲覧いただきました。

三井住友銀行では、書籍「銀行のひみつ」の発刊、ホームページ上で体験できる小学生向け金融教育ゲーム「わくわく！銀行たんけん隊」の運営、子ども向けお仕事体験タウン

金融経済教育への取り組み



「キッズニア東京」への協賛、小学生向けの銀行見学ツアー「夏休み！こども銀行たんけん隊」の開催、東京都品川区の中学生・高校生向けの経済教育プログラム「ファイナンス・パーク」への協力、大学での金融・経済に関する講義など、金融経済教育に幅広く取り組んでいます。

インターンシップの実施

日本総合研究所では、近年、在学中からの職場体験を通じた若年層への職業意識の啓発が重要視されていることを受け、平成11年からインターンシップを実施しています。平成18年からは日本総研ソリューションズと共同で運営しており、平成19年度では約80名のインターンを受け入れました。システムからコンサルティング、シンクタンクと多岐にわたる部門でインターンを受け入れ、幅広いテーマや内容で就業体験の機会を提供しています。